

## 令和4年度公益財団法人新潟市海洋河川文化財団 事業報告

### 事業概要

#### 【期 間】

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

#### 【概 要】

当財団は公益法人として、公益法人制度の趣旨に鑑み、教育文化の普及啓発事業の一層の充実を図っていくとともに、当財団の主事業である新潟市水族館の指定管理業務について5年間の指定管理期間のうち4年目の管理運営を行った。

水族館業務は、令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、基本的な感染対策を継続して行いながら、安心安全な管理運営に努めてきた。新規感染者は増減を繰り返したものの、ゴールデンウィークや夏休み期間中の行動制限や臨時休館がなく、また、中止した事業もほとんどなかったことから、入館者数の状況はコロナ禍前の水準に回復した。入館者数は514,910人で前年比123.0%と増加し、3年ぶりに50万人を達成した。また、年間パスポート販売数も過去最高を記録し、多くの新潟市民の方からご来館いただいている。

普及啓発事業においては、田んぼ体験や観察会などの野外体験教室のほか、講演会「マリニピアカレッジ」、新たな試みとして持続可能な開発目標：SDGsに関連した「海辺の漂着物探索」を実施した。その他、校外学習や出張事業などを通し、教育施設と連携を図った。

また、生物の飼育状況としては、令和1年から3年連続でカマイルカが誕生したが、令和4年度においても8月にカマイルカが誕生し、4年連続となった。その他、令和4年度は高病原性鳥インフルエンザが全国的に猛威を振るい、市内においても死亡した野鳥から陽性反応が確認されたことから、当館のマニュアルに基づき、適切な対応を行った。

新型コロナウイルスの感染症上の位置づけが「2類相当」から「5類」に移行され、今後多くのお客様からお越しいただけると期待している。新潟市水族館の指定管理者として来館者の安心・安全を第一に考え、新潟市水族館の設置目的と「新潟で一番愛される施設」という私たちのビジョンを達成するため一層の来館者の満足度向上に努めるとともに、法人としても健全な運営を行っていききたい。

なお、事業報告の詳細については、次のとおりである。

#### 【事業名】

##### 公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

##### 収益事業

- 1 施設管理に付帯する事業

公益目的事業

1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

【事業目的】

新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等、人との関わりの大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。

【主な事業内容】

(1) 海洋・河川文化の普及啓発

☑…新規事業

区 分	名 称	プログラム等	実施日等	参加人数
体験学習	田んぼ体験	田植え	6/5	22人
		稲刈り	10/2	22人
		脱穀	10/16	22人
		稲わら工作	11/13	15人
	野外体験教室	貝の標本づくり	8/17	20人
		潟のいきもの観察会	9/25	20人
		☑海辺の漂着物探索	3/25	20人
講演会	マリンピアカレッジ	柳都新潟 森と海をつなぐ川沿いの森林	4/9	27人
		海と川を行き来する小さな回遊魚たち	6/11	20人
		トゲのある不思議な魚を知ろう	9/10	32人
各種施設との連携	出展展示	にいがた環境フェスティバル	11/6	約500人
		第5回ちょ～生きもの発表会 ※ハイブリッド配信	12/18	約370人
		新潟大学医歯学総合病院 小児病棟 ライブ配信	9/14	約10人
		県立がんセンター新潟病院 小児病棟 ライブ配信	9/14、3/24	約10人
	社会教育施設関連	☑鳥屋野地区公民館 小学生向け出張講座(水族館の生きもの話し)	8/5	19人
	学校教育施設連携	総合学習の受け入れ	小学校5校、中学校12校、高等学校1校、その他7校 計23校	696人

		実習生の受け入れ	新型コロナウイルス感染防止のため受け入れ中止	0人
		教育現場への講師派遣	小学校11校、中学校1校、高校1校、専門学校1校計13校	約550人
	講師派遣	福島潟いきものしらべ水生動物観察会（ねっとわーく福島潟）	4/3	22人
		夏休み親子魚探検隊（生物多様性保全ネットワーク新潟）	7/31	24人
		特別展関連イベント「探せ！ゴーストクラブ（長岡市立科学博物館）」	7/30	33人
		ウミガラスってどんな生き物？（新潟県愛鳥センター）	11/23	49人

(2) 海洋・河川文化の調査研究

■…新規事業

区分	名称	内容
研究発表	JAZA（日本動物園水族館協会）関連	水族館技術者研究会 ・カワヤツメの人工授精とアンモニーテス幼生の育成と展示 ・飼育下におけるシロウの育成と成熟
各種会議	JAZA 関連	通常総会、生物多様性委員会、ユーラシアカワウソ計画推進会議、ブロック園館長会議、水族館技術者研究会、教育普及委員会、設備会議、海獣技術者研究会、ブロック事務主任者会議など
	その他会議	水産庁委託「さけます等栽培対象資源対策委託事業 新規栽培対象種技術開発（魚類・甲殻類）グループ」調査計画会議、日本水族館協会「通常総会」「トレーニングセミナー（新潟開催）」「イルカ人工授精シンポジウム」、新潟県博物館協議会、東京都葛西臨海水族園主催「ペンギン類飼育技術研究会」、サンシャイン水族館主催「バイカルアザラシ飼育情報交換会」、大都市動物園水族館事務主管者会議など
研究	水産庁委託	アカムツの種苗生産技術の開発研究及び親魚養成技術の開発
	環境省委託	新潟県産コシノハゼ生息域外保全事業
共同研究	JAZA	ユーラシアカワウソの泌尿器疾患にかかる研究・栄養評価
	岐阜大学	カマイルカの繁殖生理の季節性や生殖腺活動の状況などの調査
	東京海洋大学・常磐大学	カマイルカの出産に伴う鳴音の変化及び仔の音声発達に関する研究
	新潟大学	イルカから水中で無侵襲的に脳波を記録する方法を確立するための研究
	日本獣医生命科学大学	ハンドウイルカとカマイルカの代謝モニタリング調査
	東京海洋大学	カマイルカ母仔の鳴音に関する研究
	日本大学	ペンギン類の鳥マラリア感染に関する研究
	長岡市立科学博物館	大河津分水路河口域周辺におけるスナガニの生息状況調査
圏北海道大学	環境 DNA を使ったコシノハゼの生息調査	

(3) 海洋・河川文化の保護保全（生物種の保全を含む）

区分	名称	内容	回数
生息域内 保全	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	1回
	コシノハゼ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	6回
	サンショウウオ調査	県内の希少両生類の生息調査	3回
	スナガニ調査	大河津分水周辺及び新潟市内の生息調査	1回
連携調査	福島潟いきものしらべ水生生物観察会	NPO ねっとわーく福島潟の自然観察会への講師派遣	1回
	親子魚探検隊	生物多様性保全ネットワーク新潟の自然観察会への講師派遣	1回
	佐潟現地調査	新潟市里潟研究ネットワーク会議の調査への職員派遣	1回
生物調査	漂着混獲生物調査	県内の海岸に漂着または混獲された生物の調査	16回

2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

【事業目的】

新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。

【主な事業内容】

(1) 水生生物に関する知識の普及振興

名称	プログラム	内容	実施（予定）日	参加人数
企画展示	新潟のタナゴ（春期）	新潟県に生息するタナゴ亜科魚類 4 種と新潟県では絶滅とされながら生息が確認されたゼニタナゴなどを生体、標本、パネルを用いて展示した。	3/18~6/12	66,557人
	隈の魚-クマノミ-（夏・秋期）	日本近海に生息するクマノミ類を中心に生体の展示や、繁殖生態、性転換の仕組み、イソギンチャクとの共生関係について紹介した。	7/15~11/27	179,543人
	フォトコンテスト受賞作品展（冬期）	館内で撮影した写真を公募しコンテストを行い、上位受賞作品の展示会を開催した。 応募点数：121点 展示点数：121点	12/9~2/26	29,322人
	カマイルカの繁殖-妊娠・出産・成長の記録-（春期）	マリンピア日本海で飼育・展示しているカマイルカの妊娠から出産、仔育てと仔の成長についてパネルや模型などで解説し、観察でわかったことや、大学との共同研究について紹介する。	3/10~6/18	開催中
いきもの教室	イルカを調べてみよう	生体の観察を通してからだのつくりや運動能力を紹介し、イルカについて正しい知識や情報を学んでもらった。	5/28	19人

	海の水、陸の水、水族館の水	水棲生物を飼育する上で欠かせない『水』をテーマに、水族館が水をどこから得ているかツアー形式で見学した。また、海水や淡水の違い、水の汚れについて実験を通し学んでもらった。	6/25	17人
	ペンギンの羽根	実際に羽根が生え替わり中のペンギンやヒナを観察し、生態や繁殖について学んでもらった。また、取れた羽根を用いて標本を作製した。	7/30	17人
	イカの解剖	イカの解剖を通し、頭足類と脊椎動物の違いや共通の特徴について学んでもらった。実際のイカの飼育水槽で生体の観察を行いイカがどのような生き物なのか理解を深めてもらった。	1/14	21人
	鳴き声に注目	イルカやペンギンなど、生きものが出す様々な音を聞き、その時の動物がどんな状態、特徴を持つのかを考えてもらった。	1/21	18人
	魚のからだを観察しよう	サバの解剖を通し、水中生活を送る硬骨魚類の身体の構造を学んでもらった。呼吸器であるエラの構造やヒレの動かし方、各臓器のはたらきなど、骨格から体がどの方向に曲げられるかを観察した。	2/4	20人
特別ガイドツアー	ナイトツアー	通常観ることのできない閉館後の夜の水槽の様子を観察してもらい、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等を解説する予定だった。	8/26、8/27 9/2、9/3	新型コロナウイルス感染防止のため中止
参加型イベント	にいがたフィールドガイド	にいがたフィールドを解説しながら案内し、環境と希少生物の域外保全等を紹介した。最後に、その時期に観察できない生物の紹介と解説を補足するための冊子を配布した。	4/16、5/21 6/18、9/17 10/16	69人
	イルカバックヤードミニガイド	バックヤードやステージの見学を通して、飼育の裏側やイルカの生態について解説した。	10/8、10/15 10/22、10/29	58人
	育成室開放	通常入室できない本館地下の育成室を、職員立ち合いのもと入館者に開放した。	11/19、12/17 1/21、2/18 3/19	453人
	ミナミイワトビペンギン解説	ペンギン海岸観覧席を使って、ミナミイワトビペンギンを観察しながら形態や生態について解説した。	10/17~10/31 (計15回)	615人
記念日イベント	ペンギンの日イベント	ペンギンの生態や野生の現状、飼育の工夫について、パネル展示やクイズ、バックヤードツアーを通して解説した。	4/23、4/24	108人
	カワウソの日イベント	カワウソ類の生態や野生の生息状況などについての解説パネルを展示するとともに、ユーラシアカワウソについての解説を行った。	5/22、5/23	160人
大人向け教室	写真教室	水槽撮影時に役立つ技術をレクチャーし、実際に館内で生物を撮影し、撮影後は作品発表を行った。	11/5	5人
	車イス利用の大人向け水族館講座	身体に障がいのある方を対象とし、座学で水族館の飼育システムや飼育生物についてレクチャーした後、バックヤード見学などを行った。	11/19	4人

	年間パスポートユーザー向け大人のための水族館講座	年間パスポート保有者を対象とし、水族館の飼育システムや飼育生物についてのレクチャーした後、バックヤード見学などを行った。	2/5	20人
	大人のための水族館講座	一般の高校生以上を対象とし、水族館の飼育システムや飼育生物についてのレクチャーした後、バックヤード見学などを行った。	2/18	11人
	大人の視覚障がい者のための水族館講座	触れることができる生きものや標本などを活用し、水族館の生き物についてのレクチャーを行った。水族館の役割や生物多様性の話などを伝え、館内見学を行った。	3/18	4人及び介助者3人

## (2) 水生生物の収集、飼育、展示

区分	名称	内容	回数	参加人数
常設展示	飼育展示	600種 20,000点の魚類、海獣その他水生生物の飼育展示規模を維持、拡大。	常設	-
常設解説	イルカショー	イルカの認知、行動能力などを解説し、楽しく学べるイルカショーを実施した。(約15分)	4~5回/日	-
	マリンサファリ給餌解説	トドに餌を与えながら、体のつくりや生態について解説を行った。(約10分)	2回/日	-
	ペンギン解説	ペンギンに餌を与えながら、分類や生態、生息地の環境について解説を行った。(約15分)	2回/日	-
	日本海大水槽解説	大水槽の展示生物の紹介や海洋環境に関する知識の普及、水族館のしくみまで多角的な情報を伝えた。(約10分)	1~2回/日 (繁忙期以外)	7,262人
	磯のいきもの解説	磯の体験水槽で、生物の扱い方や、生息環境について、解説を交えながら近くで観察してもらった。(約10分)	1回/日 (繁忙期以外)	2,666人
	アクアラボ体験	通常展示では伝えられないさまざまな生き物に関するプログラムを開催し、来館者へ発信した。(約20分)	1回/日 (繁忙期以外)	2,437人

区分	名称	内容	回数
生物収集	能生乗船	カゴ漁（ベニズワイガニ、イサゴビクニン等）採集	3回
	佐渡乗船	カゴ漁（ホッコクアカエビ、トゲビクニン等）採集	2回
	寺泊乗船	定置網漁（アオリイカ等）	3回
	間瀬乗船	アラ底引き網（アラ他）採集	2回
	所有ボート乗船	流れ藻、ブリ等採集、アオウミガメ放流	2回
	出雲崎・柏崎アマモ場	アマモ、コシマガリモエビなど採集	7回
	水族館地先	アカモク、マヒトデ、マナマコなど採集	6回
	淡水生物採集	コシノハゼ、カジカ大卵型等採集	4回
	新潟漁協両津支所	ヤマトコブシカジカ、サラサベッコウタマガイ等収集	1回

	寺泊漁協	アカムツ、ミズダコ等	20回
	新潟漁協西蒲支所	ホッケ、マヒトデ等	5回
	新潟漁協新潟支所	コンペイトウ等	8回
	信濃川漁協	ジュウサンウグイ	2回
	新潟県水産振興協会	アユ	1回
	阿賀野川漁協	カワヤツメ	1回
	新川漁港五十嵐漁協	クロスタウナギ等	4回
	KANSO テクノス宮津魚 っ知館	ナンヨウハギ等	1回
	海洋生物環境研究所	シロギス	1回
	佐渡漁港天照丸漁業生産 組合	マイワシ	2回
生物交換	ふくしま海洋科学館	サクラダイ	5回
	上越市立水族博物館	ダーリアイソギンチャク等	2回
	尖閣湾揚島遊園 水族館	イトマキヒトデ等	1回

## 収益事業

### 1 施設管理に付帯する事業

#### 【事業目的】

施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置。

#### 【主な事業内容】

区分	場所	設置数
レストラン	本館2階	1ヶ所
軽食	屋外、屋上 ※季節営業	2ヶ所
移動販売車	アプローチ棟手前 ※季節営業	1ヶ所
売店	アプローチ棟	1ヶ所
自動販売機	館内各所	19台
ロッカー	本館1階	1ヶ所
記念メダル	本館1階	2ヶ所
プリクラ	水辺の小動物ゾーン	1ヶ所